

JASRI ご挨拶

財団法人 高輝度光科学研究センター（JASRI）
理事長 白川 哲久

第9回サンビーム研究発表会報告書刊行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

先だって「サンビーム10年史」への祝辞でも申し上げたところですが、本年6月にJASRIの理事長に就任し、14年ぶりにSPring-8に帰ってきてとりわけ嬉しく思いましたのは、産業利用の著しい進展ぶりでした。そして、最近そのことを肌で感じる機会がありましたので、それに触れたいと思います。

まず第一は、8月下旬に神戸で開かれました日英放射光産業利用ワークショップです。このワークショップは、英国のDIAMONDからMaterlik所長始め英国産業界からも参加者を得て、両施設の産業利用への取組みや経験について情報交換を行うことを主な目的として開催されました。英国側は、産業利用といってもこれまでのところ製薬業界が主体で広がりが十分でないこともあって、SPring-8における産業利用の進展を目の当たりにして大いに驚き、日本は放射光の産業利用については英国の10年先を行っていると思っておりました。来年は英国でフォローアップの会合を開催することで合意したところです。

第二は、本報告書の元になった、9月始めのSPring-8シンポジウム・産業利用報告会合同コンファレンスです。ご承知のように本年から学術的な利用活動の報告を中心としたSPring-8シンポジウムと、産業界の相互交流等を目的とした産業利用報告会を合同で開催し、学术界と産業界の連携をこれまで以上に深める機会を提供することに致しました。おかげさまで参加者も例年以上に多く、サイエンス側からも産業界からもこの試みは大いに歓迎されたところでございます。私も可能な限りサイエンス・インダストリー両方の発表を拝聴いたしましたが、特に産業側の取組みが非常に広範な業種に及んでおり、かつそのレベルが大変高まっていることに感銘を受けました。また、産業利用における産学連携も格段に進展していることを改めて認識いたしました。

そして、その先駆けであり中心的な活動をされてきたのは、このサンビームの企業の方々であることは言うまでもありません。サンビームは今年から新たな10年に向けて活動を開始されましたが、今後ともSPring-8の産業利用を先導していただきますよう、心から期待しております。

最後に、ひとつお願いがございます。それは、前述の合同コンファレンスでもご来賓の文部科学省・磯田研究振興局長も強調されておりましたように、「(SPring-8は)施設の運営にあたり多額の国費が必要とされるものであり、その意義や有用性についての国民の理解を得るため、今まで以上に生み出した成果を広く社会に情報発信していくことが求められる」ということでもあります。今回の成果発表会、そしてこの報告書自体がそのことも念頭に置いた努力の一環であると理解しておりますが、サンビームにご参画の個々の企業の方におかれましても、今後ともあらゆる機会を捉えて積極的にSPring-8の有用性、必要性を広く、かつわかり易く、一般の方々にお伝えいただきたいと思っております。それは翻って、SPring-8の、そしてサンビームのご関係の企業の、更なる発展に大きく寄与する所以であると確信しております。どうかよろしく願いいたします。



白川理事長